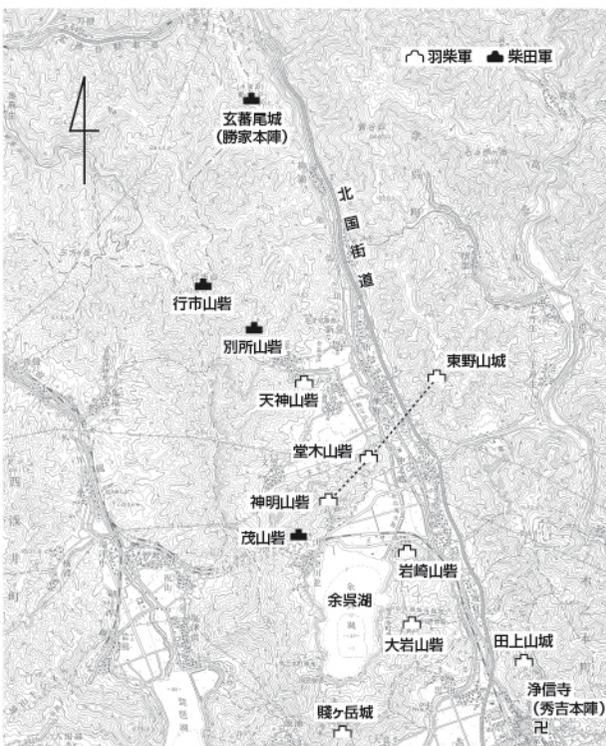


# 賤ヶ岳合戦 両軍前線の 山城をゆく

令和7年9月25日 別所山・行市山  
10月9日 堂木山・神明山

山の上から攻め下りた柴田方と北国街道を  
抑えた羽柴方。柴田軍の攻める行市山  
砦と別所山砦、そして羽柴軍がはばむ堂  
木山砦と神明山砦に登ると、両軍の狙い  
が手に取るように見える。



〔「近江城郭探訪」をもとに作成〕

## 別所山砦と行市山砦

### 林道を車で別所山砦登り口まで

行市山は標高659m余。その山頂のすぐ南に柴田方の砦が築かれた。柴田軍の陣城の中でいちばん高い所にある。登る高さは500mほど。麓の長浜市余呉町新堂の「毛受兄弟の墓」から登山道があり、2時間ほどの山登りになる。登れない高さではないが、油断は禁物だ。今回の参加者は、みくなの取材班が太田先生を含め4人、それに一般参加者が2人。計6人が林道を車で途中まで上がることにした。

長浜市役所余呉支所から北へ約4km。国道



写真② 堂木山砦の郭から南に余呉湖・賤ヶ岳・田上山などが一望



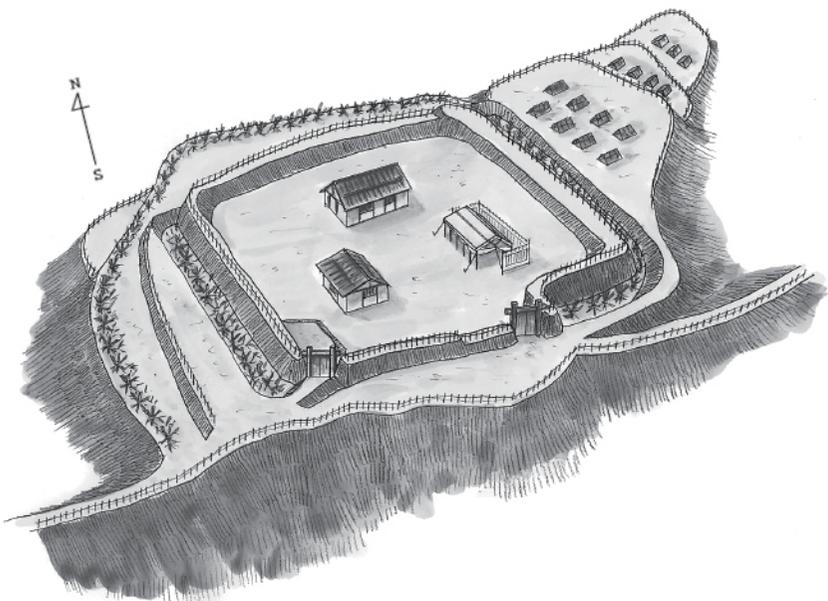
写真① 行市山への尾根上で北国街道や堂木山が望める



▲別所山砦の前で縄張図を見ながら土塁を確認する

365号沿いに小谷のバス停があり、バス停のすぐ北で国道を左へ折れる。余呉川を渡る手前にノボリ旗風の案内板があり、林道池原小谷線が始まる。砂利道だが道はしっかりしており、15分ほど上がった所で新堂からの登山道と出会う。別所山砦への登り口だ。両砦への案内板が立っており、すぐ近くに車を数台置けるスペースもある。

まずはホイッスルを「ピー、ピー」と2笛。次に「おーい、おーい」と2声。さらにスマホで賑やかミュージックスタート。クマとお近づきにはなりたくないし、出発時の気合入れも込められている。アニマル浜口の「気合だー！」みたいなものと思っただけ。朝乃山のルーティン、花道奥での背中叩



べっしょやま  
▶別所山砦(長浜市余呉町池原)  
行市山から東に派生する尾根上に、柴田軍の最前線の陣城として築かれた前田利家・利長親子の砦。曲輪と平坦地が繋がった単純な構造だが、北の行市山砦へと続く尾根道に、尾根を切断する堀切などが残っている。

きパンパン、でもある。

## 別所山砦に前田利家・利長が陣

山道はしっかりしている。所々、木の枝に赤いテープが巻いてあるので安心。でも見通しの利かない森の中、気を引き締めつつ歩き出した。が、10分余り歩くと、意外にあっさり平坦な地形が現われた。その先に高い土塁と堀切も見える。別所山砦に到着だ。

「遺構がよく残ってますね」と太田さん。柴田軍の陣城の中では、柴田勝家の本陣である玄蕃尾城に次いで2番目に大きな規模だ。曲輪はほぼ四角形で、南東の角がL字型に凹んでいる。横矢掛かりという仕掛けで、虎口へ入ってこようとする敵を2方向から狙って射ることができる。

登ってきた方面、曲輪の東側に広い平坦地が2、3段あり、ここに多くの雑兵が駐屯したようだ。「羽柴軍を攻めるなら、いつでもOKだがね」という感じ。最初ここに砦を築いたのは前田利家・利長父子。(わかる人にはわかると思うけど尾張弁で再現しました。)南に羽柴方の天神山砦を見下ろせる前線の適地に陣取ったわけだ。

これに対して羽柴方は「上から覗かれたらたまらんわ」と、こちらも尾張弁(湖北弁かもしれない)で前線を下げた。南の堂木山まで下がり、堂木山砦と東野山砦を結ぶラインを「惣構」と呼んで前線の防衛ラインにした。